

2025年(令和7年) 7月24日 木曜日

東奥日報 13面 掲載

【評】八学光星が序盤から青森北を攻め
押田小虎が気を吐いた。
青森北は4失策、4暴投と守備が乱れた。
三回に上藤亘の内野ゴロの間に1点を失った。
それがやつとだった。



【青森北・八学光星】1回
裏、八学光星2死一、二塁、
押田小の右前安打が失策を
誘い5—0

1年・押田小 2安打2打点

八学光星の1年生一塁手
押田小虎が気を吐いた。
青森北は4失策、4暴投と守備が乱れた。
三回に上藤亘の内野ゴロの間に1点を失った。
それがやつとだった。

光星 5回コールド

第107回 全国高校野球
青森大会

第9日

「初回から理想通りの打撃」

八学光星の1年生一塁手
押田小虎が気を吐いた。

初回2死一、二塁の場面で右前へ適時打を放つと、四回にも1死満塁の好機で右前適時打をマークし、2安打2打点の活躍。「初回から理想通りの打撃ができる」という形で試合に入ることができた。とすがすがしい表情で語った。

「ストップティングのイメージで打て」という仲井監督からのアドバイスをお守り代わり。この日もミットを意識して左打席に立つと、初回、四回ともに「狙っていた」という内角の直球をはじき返した。試合前はあまりの緊張で集中できず、仲井監督から一喝され

たといい「気合を入れてプレーできた」と笑顔を見せた。



4回裏、八学光星1死満塁、押田小が右前適時打を放ち10—1

東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したもの